

# 高校生の余暇・購買行動と中心市街地の課題 —新潟青陵高等学校2年次生徒へのアンケート調査結果から—

平 川 毅 彦

新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科

## What High-school Students Do and Buy in Their Free Time, and How the City's Downtown Area Can Better Meet Their Needs

: Results from a Questionnaire Given to Second-year Students at Niigata Seiryō High School.

Takehiko Hirakawa

NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY DEPARTMENT OF SOCIAL WELFARE AND PSYCHOLOGY

### キーワード

中心市街地、活性化、高校生

### Key words

downtown, revitalization, high school students

## I 調査の概要と対象者の属性<sup>1)</sup>

新潟市においては、図1に記したように「古町地区」「万代地区」「新潟駅周辺地区」の3ヵ所をもって重点活性化地区＝中心市街地として、様々な活性化プランが展開されている。なかでも、2008年に策定された「新潟市中心市街地活性化基本計画」において、以下のような提言がなされている。「それぞれに特徴を持つ古町地区、万代地区、新潟駅周辺地区の3つの地区が連携し、多様な消費者ニーズに中心市街地全体として対応することが求められる。よって、3つの商業核である古町地区、万代地区、新潟駅周辺地区のそれぞれでの回遊性、そしてその各地区間の回遊性を今まで以上に高め、中心市街地全体で魅力を提供できる環境づくりが必要である<sup>2)</sup>」とされている。しかし、「拠点」「にぎわい」といった点からは地区間に温度差があり、とりわけ大型店舗の撤退による「古町地区」が抱える課題はきわめて大きい<sup>3)</sup>。

本研究では、新潟市中央区内に位置する新潟青陵高等学校2年次生徒328名<sup>4)</sup>を対象とし、2011年12月、ホームルーム等の時間を借用し、それぞれの教室にて調査票の配布・記入・回収を行った<sup>5)</sup>（集合調査）。調査にあたっては、事前に高校へ文書にて依頼を行い許可を得たうえで、調査実施に際しては「生活指導」とは全く無関係であることを強調し、担任の教諭に記入した内容を見られないように、各自に配布した封筒に記入した調査票を封入後、担任教諭に回収を依頼、300票の有効回答を得た<sup>6)</sup>（回収率91.5%）。

回答者の基本属性は、男性106名（35.3%）、女性194名（64.7%）、居住地は西区・東区・中央区の3区で全体の60%を占めてはいるものの、新潟市内各区及び近接市町村に及んでいる（表1）。居住地が広範囲に及んでいることを反映して、主な通学手段としてはJRが全体の半数強を占めている（表2）。さらに、携帯電話の使用料を除く1ヵ月の小遣いの平均値は6266円であり、最頻値・中央値はともに5000円である。

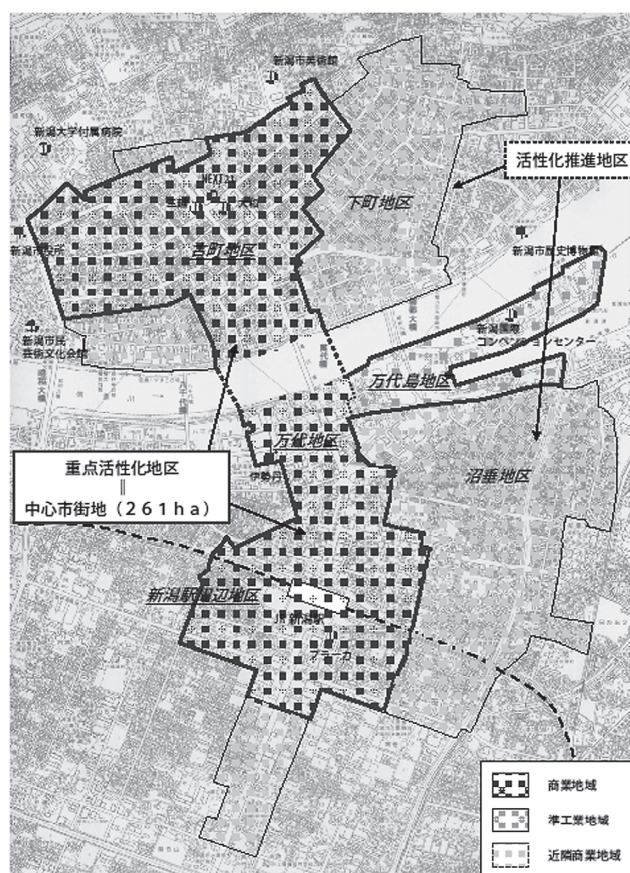


図1 新潟市中心市街地域図(新潟市.2008:32)

表1 回答者の居住地

	人数	パーセント
北区	19	6.5%
東区	56	19.1%
中央区	55	18.8%
江南区	21	7.2%
秋葉区	21	7.2%
南区	15	5.1%
西区	69	23.6%
西蒲区	17	5.8%
新潟市外	20	6.8%

表2 主な通学手段(複数回答を再集計)

路線バス	J R	自転車	徒歩	スクールバス	その他
44	153	30	8	57	5
14.7%	51.0%	10.0%	2.7%	19.0%	1.7%

## II 休日の外出先・目的及び手段

休日の外出場所としては、新潟駅周辺が

58.7%、万代地区が48.7%、古町地区が26.7% (以上複数回答) という順である(表3<sup>7)</sup>)。また、外出目的・同伴者についての回答から、そうした場所へは「友達」と「買い物」に行き、「カラオケ」で歌い、「映画」を見するという姿が浮かび上がる(表4・表5)。さらに、外出時の主な交通手段としてJRと路線バス、自転車で全体の92%強を占めている(表6)。自動車免許をとることのできない高校生にとっては、平日の通学手段を利用して中心市街地へと出かけている。

郊外ショッピングセンターの進出を原因として、中心市街地の衰退がしばしば語られてきた。しかし、モータリゼーションの恩恵に与っていない高校生にとっては、公共交通を利用して行くことのできる中心市街地は貴重な存在である。

表3 休日の外出場所（複数回答）

古町	万代	新潟駅	郊外S C	その他
80	146	176	97	54
26.7%	48.7%	58.7%	32.3%	18.0%

表4 外出時の同伴者（複数回答）

出かけない	一人で	同学校友人	別学校友人	家族	その他
18	104	203	176	156	16
6.0%	34.7%	67.7%	58.7%	52.0%	5.3%

表5 外出目的（複数回答）

出かけない	買い物	映画	ライブ	カラオケ	友達	グルメ	図書館	なんとなく	その他
19	240	82	27	143	164	44	14	58	17
6.3%	80.0%	27.3%	9.0%	47.7%	54.7%	14.7%	4.7%	19.3%	5.7%

表6 外出時の主な交通手段（複数回答を再構成）

路線バス	J R	自転車	徒歩	自家用車
62	144	65	2	20
20.7%	48.0%	21.7%	0.7%	6.7%

### Ⅲ 中心市街地の利用・非利用と「魅力度」

中心市街地にある商店街への評価では、「新潟駅周辺」（66.1点）、「万代シティ及びその周辺」（64.9点）、「古町及びその周辺」（56.0点）

となり、その数字を比較する限りでは、古町及びその周辺に対して厳しい評価が下されていると見なすことができる（図2）。

しかし、この魅力度について、実際にその商店街の利用／非利用別に再集計を行うと、当該商店街を実際に訪れている者にとっては、その評価はいずれも高く、逆に利用していない者の評価が低くなっていることが判明する。さらに、「古町及びその周辺」の商店街を実際に利用している場合の魅力度は63.0点となり、10ポイント強、引き離されていた「新潟駅周辺」との差は5ポイント前後にまで縮まり、「万代シティ及びその周辺」との差も3ポイント弱となる。「当該商店街を訪れること」と「魅力度が高くなること」との因果関係についてここで論じることはできない。しかし、実際にそこを訪れている調査対象高校生にとっては、魅力度の数値が最も低かった「古町及びその周辺」は、ほかの地区と比較して大きく魅力度に欠けるというわけではなかった。

「古町及びその周辺」が現在抱えている課題は、一朝一夕に解決できるようなものでは

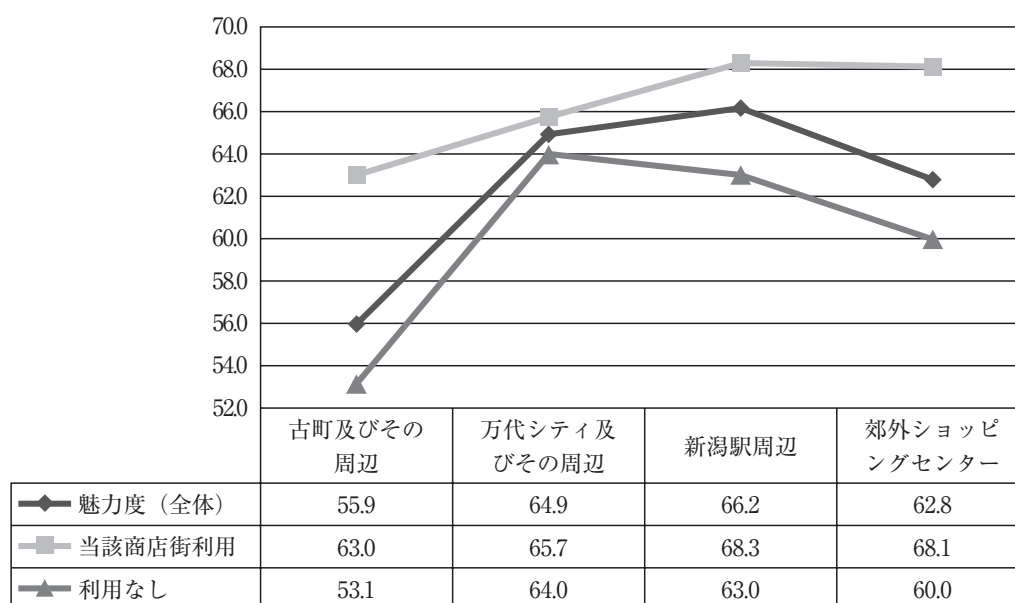


図2 利用・非利用別商店街の魅力度（平均点）

ない。しかし、限られた範囲のデータであるとはいえ、本調査における数字が示しているように、若い世代が感じている魅力度は決して低いものではない。そして、この魅力度をこれまで以上に高めていくためにどのような方策が必要なのか。より広範な市民を対象としたデータに基づき、入念な考察・提言を行うための第一歩としたい。

#### [注]

1) 本研究は、新潟市中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」(長谷川守英座長)独自事業として行われた調査に基づいている。筆者は部会構成メンバーの意見を取り入れながら、調査設計から調査票作成・分析を担当した。本稿における調査結果の公表に際しては、上記部会の了解を得ており、内容については執筆者が責任を負っている。なお、本調査は、2012年夏に予定されている新潟市民4000名を対象とした調査に先行するパイロットスタディとしての性格が強く、ここでは集計結果を中心に執筆した。

「資料」とした所以である。

2) 新潟市. 2008:25. なお、参照したものは2012年3月に改訂されたものである。

3) ホクギン経済研究所. 2006(11).

4) 1年生はまだ「まち」に馴染んでいないと思われたため、また3年生は受験を控えているため、2年生のみを調査対象とした。

5) 調査に協力していただいた生徒および宮沢校長先生をはじめとする各教諭の方々にこの場を借りて感謝します。本調査終了後、2012年3月には青陵高等学校2年次生徒7名の参加によるワークショップを開催、新潟市中心市街地への「本音」を語ってもらった。参加した生徒の皆さんに重ねて感謝します(ワークショップへの生徒派遣についても事前に青陵高校から許可をいただきました)。また、調査に関わる煩雑な業務は、新潟市中央区役所地域課区政推進係小

林崇幸さん(当時)が主に担当した。彼のサポートがなければこの調査が円滑にすすむことはなかったと言っても過言ではない。

6) 参考資料(調査票)を参照。

7) 「郊外ショッピングセンター」については、調査票時点で個別・具体的な場所を指し示していない。従って、その数値に関してはあくまで参考である。また、「その他の商店街」に関しては、内容が多岐にわたり煩雑となったため割愛した。

#### [文献一覧]

ホクギン経済研究所. 新潟県の中心市街地の現状と課題ー大型店、そして中心市街地のありかたは. ホクギンクォーター21. 2006:148(11): 1-27.

新潟市. 新潟市中心市街地活性化基本計画. 2008(新潟市HP.<<http://www.city.niigata.jp>> 2012年5月16日参照).



[参考資料]

2011年12月

## 高校生の購買・余暇行動と「新潟市中心市街地」に関する調査

新潟市中央区自治協議会「拠点と賑わいのまち部会」

座長 長谷川 守英

調査のお願い

本アンケートは、新潟市中央区内の高校に通学する生徒が普段どこで買い物や余暇を過ごしているのか、また新潟市中心部に対してどのようなニーズを持っているのかを調査し、そのデータを用いて、この街をどのようにして今以上に賑やかなものにしていくのかを提案していきたいと考えています。個人の回答や名前が出ることはありませんし、「生活指導」などとも無関係です。どうか、大切な時間をすこし分けてください。

それでは、早速質問に入らせていただきます。

問1 あなたは、学校がお休みの日（週末や祭日等）に自宅と学校以外の場所にでかけることがありますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 古町及びその周辺      2. 万代シティ及びその周辺      3. 新潟駅周辺
4. 新潟市郊外のショッピングセンター
5. その他（具体的な商店街名や店の名前：\_\_\_\_\_）

問2 学校がお休みの日に出かける目的は何でしょうか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 出かけることはない
2. 買い物をする      3. 映画を見る      4. ライブ音楽・パフォーマンス
5. カラオケ      6. 友達と会う      7. グルメ      8. 図書館
9. なんとなく      10. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）

問3 学校がお休みの日には主に誰と出かけますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 出かけることはない
2. ひとりで      3. 同じ学校の友達      4. 別の学校の友達
5. 家族      6. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）

問4 学校がお休みの日に出かける時には、どのような交通手段を使いますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 路線バス      2. J R      3. 自転車      4. 徒歩      5. 自家用車
6. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）

次に、現在のあなたのことについて少し教えてください。

問5 あなたの性別を教えてください

1. 男            2. 女

問6 あなたの1ヶ月で自由に使うことが出来るお小遣いは携帯電話の利用料を除くと  
いくらくらいになりますか。具体的な金額で教えてください。

(金額: \_\_\_\_\_) 円

問7 自宅は以下のどこにありますか。

1. 北区 2. 東区 3. 中央区 4. 江南区 5. 秋葉区 6. 南区 7. 西区 8. 西蒲区  
9. 新潟市外 (具体的に: \_\_\_\_\_)

問8 学校への通学方法はなんですか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 路線バス 2. JR 3. 自転車 4. 徒歩 5. スクールバス  
6. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)

もう一度新潟市内の繁華街についてお聞きます。

問9 以下にあげる商店街等にそれぞれ100点満点で「魅力度」をつけるとすると  
何点になるでしょうか。

	魅力度
1. 古町及びその周辺	点
2. 万代シティ及びその周辺	点
3. 新潟駅周辺	点
4. 新潟市郊外のショッピングセンター	点
5. その他 (具体的な商店街や店の名前: _____)	点

最後の質問です。「拠点と賑わいのまち部会」では高校生によるワークショップ(グループ討論)を計画しています(平成24年春休みを予定)。アンケートだけでは引き出せない「高校生による新潟のまちへの本音」を教えてもらえないでしょうか(強制ではありません)。後ほど担任の先生を通じて連絡をいたします。協力しても良いという方のみ出席番号と氏名を記してください。

1. 無記名のままで提出する  
2. 協力したい(出席番号\_\_\_\_\_ 氏名\_\_\_\_\_)

ありがとうございました。以上で質問は終わりです。記入漏れがないかどうか、もう一度確認していただければ助かります。なお、この調査に関する問い合わせ等は、新潟市中央区役所地域課区政推進係(担当 小林 TEL(直通): 025 - 223 - 7023)までお願いします。